

令和7年度デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生拠点整備タイプ)事業の効果検証

1. デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生拠点整備タイプ)

デジタル田園都市国家構想を推進するため、デジタルの活用などによる観光や農林水産業の振興等の地方創生に資する取組を支援することを目的に、国が交付するもの。

2. 対象事業

(1) 名 称

広域連携拠点施設(熱利用施設)整備事業

(2) 事業費(補助率: 1/2)

1,059,419 千円(うち、交付対象事業費 1,059,413 千円)

【交付対象事業費の内訳】笠岡市: 351,090 千円, 井原市: 279,473 千円, 浅口市: 254,259 千円, 里庄町: 83,058 千円, 矢掛町 91,533 千円)

(3) 事業概要

岡山県笠岡市, 井原市, 浅口市, 里庄町及び矢掛町が岡山県西部衛生施設組合の広域連携拠点施設(熱利用施設)を整備し, 3市2町が人口減少や高齢化率の高まりによって抱える4つの課題(健康寿命の延伸, 新たなコミュニティの形成, 交流人口の拡大, 学校施設の老朽化と水泳授業における課題)を解決し, 地域の魅力を高める。自治体の枠を越えた新たなコミュニティの形成や住民間の交流を活発化することで地方創生として目指す「生涯活躍のまち」を実現し, 圏域への人の流れを創出する。

(4) 事業実績

本事業は, 岡山県西部衛生施設組合が「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律(PFI法)」に準じて設計・施工・維持管理・運營業務一括発注方式(DBO方式)により実施している。令和7年度は, 本事業の事業者である特別目的会社「ホシノWA株式会社」が, 施設整備計画の2年目として当該施設の建設工事及び工事監理業務を行った。

また, 施設整備に関する周辺住民への説明会を開催し, 当該施設の利用促進に向けた機運醸成にもつなげることができた。

(5) 重要業績評価指標 (KPI)

	事業開始前 令和5年度	令和6年度 (1年目)	令和7年度 (2年目)	令和8年度 (3年目)	令和9年度 (4年目)	令和10年度 (5年目)	令和11年度 (6年目)	令和12年度 (7年目)
3市2町のUIJターン者数【人】	525	(目標) 5	(目標) 6	(目標) 19	(目標) 21	(目標) 21	(目標) 21	(目標) 21
		(実績) -88	(実績) 20	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
3市2町における健活宣言企業数【社】	160	(目標) 4	(目標) 2	(目標) 5	(目標) 5	(目標) 4	(目標) 5	(目標) 4
		(実績) 16	(実績) 1	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
圏域内観光拠点(笠岡市及び矢掛町の道の駅)の入込客数【千人】	918	(目標) 7	(目標) 14	(目標) 14	(目標) 24	(目標) 23	(目標) 20	(目標) 19
		(実績) -72	(実績) △5	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
本施設の年間利用者数【百人】	0	(目標) 0	(目標) 0	(目標) 210	(目標) 702	(目標) 115	(目標) 57	(目標) 57
		(実績) 0	(実績) 0	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)

3. 実績値(令和7年度)の評価…地方創生に相当程度効果があった

設計協議においては、施設整備計画の実現に向け、利用者動線の向上やライフサイクルコストの低減が図られる施設となるよう検討を重ねた。また、交流広場や足湯スペースの配置を見直し、交流人口の拡大が図られる平面計画に変更することで、敷地の有効活用を図ることとした。

令和7年度は事業の本格実施期ではないことから、交流人口及び定住人口への大きな影響がみられず、KPI①及びKPI③の達成に至っていないものの、見直しは行わないものとする。

4. 有識者会議による検証

令和8年7月31日、有識者や市民をメンバーとする施策評価委員会において、令和7年度の実績を評価した。

本事業は、ハード整備で、評価時点で完成に至っていないため、事業完成後の成果やそれに伴うKPIへの反映は見られないものの、「施設の完成、オープンに向けて着実に準備が進んでおり、今後、積極的なPRと、生徒・児童も含めた市民の積極的な活用及び健康増進への寄与を期待する。」として、順調な進捗と評価された。

5. 今後の方針

引き続き、本事業による施設整備計画を計画通り進めるとともに、関連事業や施設のPRを行うことにより、KPIの達成を目指す。